



編集・発行者 山村 準
tel:0595-63-1725
Email jyun.y@asint.jp

名張鳥獣害問題連絡会活動

獣害につよい三重づくりフォーラムで紹介

フォーラムで紹介

私たち、名張鳥獣害問題連絡会活動を、

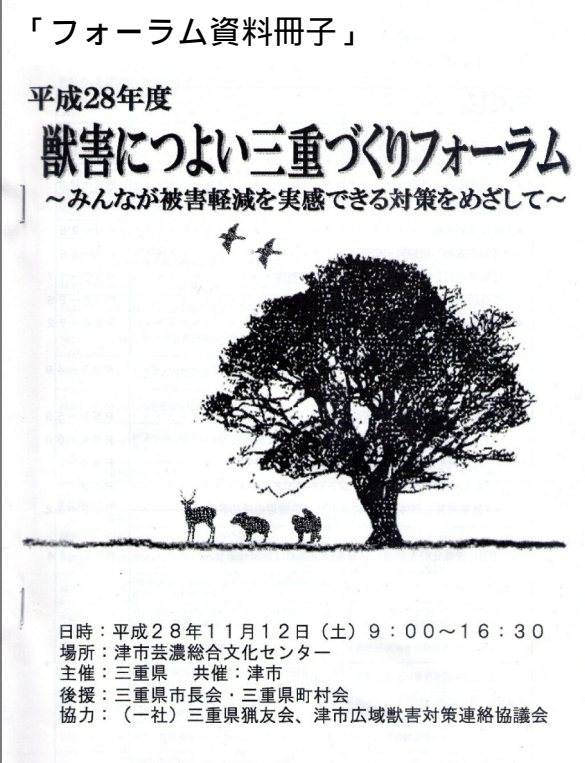
「獣害につよい集落等優良活動表彰」に推薦されました。だが、今回は残念ながら表彰には至りませんでした。

推薦者 三重県伊賀農林事務所 市川 昌樹氏
三重県中央農業改良普及センター 佐藤 恒亮氏

評価に感謝すると共に、これを機に当会の更なる充実を図りたいと考えています。

【知事表彰】 田口区(菟野町) 取組内容 地区の問題として獣害対策に取り組み、サルの追い払い活動や多獣種防護柵の維持管理のほか、関係者と連携した捕獲等の効果的な活動を展開しています。

【知事表彰】 南伊勢町鳥獣被害対策実施隊 取組内容 実施隊が中心となり、地域を巻き込みながら



「フォーラム資料册子」平成28年度 獣害につよい三重づくりフォーラム

市内全域に渡り広報活動を実施している。提供する情報は、サルの位置情報や集落ごとの出没回数、集落の餌場価値をなくすために時期に応じた有効な防除方法、現場で実施されている有効な対策の紹介や、現場で発生している問題の解決案の提起、さらには、地域での研修会の開催など、多岐に渡っている。

あると評価されました。県は、その取組を広く県内に周知するため、去る11月12日に開催しました。平成28年度「獣害につよい三重づくりフォーラム」もみんなが被害軽減を実感できる対策をめざして、

挫折の危機は幾度もありましたが、「継続は力なり」の思いで続けてまいりました。地道な活動ですが、今後も精進を重ねて継続していく所存です。

係者の皆様のご協力をいただき、大量捕獲による個体数調整を実施し、群の頭数を半減させております。地域の皆様から「サル群による被害が減少した」との声もいただいておりますが、今後もラジオリーによる行動調査により群の動向を監視し、情報発信を行うことで被害の軽減を図ってまいります。

宇陀市と協力して県境付近でも駆除を行い、多くの個体を駆除していることから、今後も注力してまいります。外来生物についての対策は、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』に基づき、被害者への捕獲檻の貸出や、環境対策室との連携により駆除を進めてまいります。

- ・いなべ市川原集落
・菟野町田口区
・松阪市嬉野町森本町
・白川集落
・伊勢市旭・藤里・勢田
・前山獣害対策グループ
・南伊勢町鳥獣被害対策実施隊
・名張鳥獣害問題連絡会
・紀宝町浅里地区農事

法人「飛雪の滝百姓塾」以上、7団体。フォーラムでは、名張鳥獣害問題連絡会の活動状況を次のように紹介されています。

当該団体は、獣害に危機感をもった、住民等の有志の組織で、情報誌「猿新聞」を地域へ提供している。

「前文省略」貴団体の取組につきましては、今回は残念ながら知事表彰には至りませんが、住民の獣害への関心を高める取組として、「猿新聞」の発行や研修会の開催等によつて獣害情報や有効な対策を広く市民に発信しており、こういった民間団体による広報活動は大変貴重で

と、県内で獣害に悩まれている地域の方々のモチベーションの向上や、または、これから取組を始めた方と考える地域の活動開始のきっかけとなるのではないかと考えています。

鳥獣害対策の方向性 名張市農林資源室 査により 群の動向

シカの急増は、冬季道路にまかれた凍結防止剤(塩化ナトリウム)が原因の一つとなっている可能性が指摘されています。

鳥獣害対策の方向性 鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

鳥獣による農林水産業等に係る被害は、鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い、中山間地域等を中心に広がり、近年では平野部においても被害が発生するなど全国的に深刻化しています。

あります。加害獣の大きさや運動能力、などを考慮して柵構造を考える必要があります。

7・8月は、畑では夏野菜の収穫の最盛期で、サル、アライグマ、タヌキなどの被害が目立ちます。

特にこれから秋にかけての時期はサツマイモ、カボチャや水稲などの被害が年中で最も大きくなる時期なので、早めの対策が肝心です。

サルによる、果菜類の被害を軽減するには、頑丈な支柱に茎葉を結わえて幹の引き抜きを防止することです。

収穫直前のトウモロコシ、スイカ、イチゴ、トマト、カボチャなどは直接、網で覆うことで被害を避けられます。

収穫は早い目に...

**秋季 9・10・11月**

9月は、水稲の収穫が近づき登熟期の稲にスズメが集まります。

登熟期の防除策としては、その地域の植え付け時期を揃えることで、早植えのほ場一面だけに被害が集中し大きな被害に遭うようなことを避けることができます。また、一般的な防除策として、

案山子・防鳥テープ・爆音機などがあります。

野生鳥獣の被害は一年中絶えませんが、特にこれから秋にかけての時期は、サツマイモ、カボチャ、水稲などの

収穫期で、1年中でもイノシシなどの被害が多発する時期です。

早めの対策が肝心です。

侵入防止柵の設置は、最も効果的な方法の一つです。設置に際しては、全ての加害獣に対応できる多目的柵の設置がコスト的にも優位です。

大事なのは、加害獣の生態と習性をよく知って設置することが基本で、特にイノシシは意外にも機敏で身体能力も高いという点を踏まえることが大事です。

イノシシは、学習能力が高く前年、安全に浸入できた田んぼには翌年も必ずといっていい程浸入します。

晩秋から冬の集落には野生獣を誘因している無意識の餌付けが沢山あります。

冬場の餌付け防止に取り組みしましょう。

稲刈り後は、秋耕転を行い「ひこばえ」を発生させないようにしましょう。

「ひこばえ」は、多くの野生鳥獣にとつて、冬場のかげのない餌となります。

稲刈りの後は、畦畔の草刈をしないで、冬場には枯草しかない状態にしておきましょう。

キャベツや白菜の葉などの収穫残さすき込むなどして、餌にならないようにしましょう。

生ごみもコンポスト容器などを使って、たい肥化しましょう。

収穫後、柵の出入り

**チョット一服 猿の話**

ある小さな島に1000匹の猿が住んでいた。ところが年々、たいへんな日照りが続き、島には500匹分の食料しかなくなりました。

さて、猿たちはどうするのだろうか？

もちろん猿は平等にエサを分け合ったりしない。まず子どもたちが死んでいく。次には老猿たちが死ぬ。そして若く強い猿が500匹だけ生き残るのだ。どうしてそんな残酷なことになるのかというと、それは次の年のようを見てみればわかる。翌年、島は昔のように豊かな食料に恵まれ、若く強い猿たちは次々と子を産み、島はまたたく間に元の1000匹の猿の島にもどったのだ。もうわかったね。子どもも歳老いた猿も、

次の子をたくさは早く元をとりもどしたいだけなんだ。そのためには、今いる子ザルや老猿が死ぬなんてことはなんでもないことだ。

さて、1000人乗りの大型客船があつて、今まさに沈没しようとしている。ところがその客船には、なんと500人分のポートしかなかった。乗りあわせた乗客たちはどうしたと思う？

人々は、まず子どもと女性をポートに乗せ、次に年老いた男が乗る。若い男たちには乗るポートもなく、そして死んでいったのだ。

覚えておくがいい。それが人間のやり方だ。

「Biglobe-サルの話」より引用。

一部、添削。

**冬季 12・1・2月**

冬の開放厳禁。被害多発地区では電気柵の通電をオフにしない。

冬場の、ほ場は農作物が少ないので1年中で農作物被害が最も少ない季節です。だが、保存してある農作物をサルが狙います。保存には十分な配慮が必要です。

収穫・管理されていない柑橘類なども、冬場の野生鳥獣にとっては魅力的な餌になります。

イノシシによる土手の掘り起こし被害もこの時期に集中します。また、防護柵の補修・点検・管理もこの時期の大事な仕事です。この時期に餌を与えることは自然死する個体を減らし、個体数が増加する要因にもなります。冬場に餌を与えてしまつたようなら、餌をなくすことが、獣害対策上極めて重要となります。

**中山間集落の願い**

中山間地域は、国土の骨格で、全国土の7割程度の面積を占め、総人口の約14%が居住する地域で、我が国の農業の中で重要な地位を占めています。

いま、中山間地域の現状を見ると、高齢化率は30%超え、中山間集落は、いま、限界集落といわれるほど疲弊しています。高齢化・過疎化の進行している集落においては、獣害対策もままならぬ集落も多くあり鳥獣による被害に歯止めがかからず、ますます過疎化に拍車がかかるという集落が増えています。

「集落ぐるみで獣害対策を！」

集落ぐるみで獣害対策は単なる「絵空ごと」のようにおもえます。獣害に加えて農業条件の不利性から中山間集落では「来年から百姓やめた！」と諦めムードが漂っています。諦めムードが耕作放棄地の拡大につながり、それが更なる獣害拡大という負の連鎖。

日本の国土面積の73%といわれる中山間地域の諦めムードの蔓延は、日本農業の未来が危ぶまれます。

そこで、集落ぐるみで獣害対策を考えると、農家の協力だけでなく、農家の協力も得られれば農家にとっては労力負担の軽減が、非農家にとつても地域の生活コミュニティが向上するなどの効果が期待でき、集落の活性化にもつながります。

そこで、いま、望まれる重要なことは、農家と顔が見える関係にある行政の関係者が、積極的に関与し、期待しています。

多くの市町村では専門的な知識をもった人材、あるいは資金の面で対応に苦慮されるとおもいますが、各地域の実情に応じた対策の促進に、中山間地域は期待しています。

各地域の実情に応じた対策の支援など市町村が果たすべき役割に、いま期待が高まっています。被害対策に十分な予算を投入することも必要ですが、フェンスなどの設備にだけお金を使うのではなく、専門的知識や技術の研究の機会を増やしたり、普及体制を確立したりするための援助にもつと力を注ぐべきです。

被害がみられます。B群は、先月同様に西谷・伊賀竜口・上三谷が移動ルートになって遊動しています。頭数が少ないので中々出てこない状況ですが最近山に餌が少なくなり、畑等に出没しています。A・B群共に終日一区域に長期滞在する傾向が見られます。

**指導員報告**

**サルの出没状況 名張A・B群**

1月のサルの動向

A群は、先月同様に食餌資源の多い地区の上比奈知・つつじが丘周辺(奈垣等)を中心として遊動を繰り返しています。今年になって、つつじが丘では周辺ではなく住宅内まで侵入してきています。また、一定区域(奈垣・弁天橋付近)に数日間滞在する傾向が見られます。奈垣では、大根等に被害がみられます。

B群は、先月同様に西谷・伊賀竜口・上三谷が移動ルートになって遊動しています。頭数が少ないので中々出てこない状況ですが最近山に餌が少なくなり、畑等に出没しています。A・B群共に終日一区域に長期滞在する傾向が見られます。

- 名張鳥獣害問題連絡会 発行部数
- 錦生地区：100部
  - 赤目地区：200部
  - 箕輪地区：70部
  - ひなち・富貴ヶ丘：150部
  - つつじが丘：430部
  - 市民センター：120部 (12地区)
  - 名張市議会：20部
  - 名張市役所：20部

